

# 作業改善実践トレーナーこそ SNAP(生産革新)活動推進の要だ!

～社長以下3期にわたってトレーナー養成講座を修了、  
やり抜いた自信がさらなる改善に～  
スタンレー宮城製作所

東京から東北新幹線で2時間半のくりこま高原駅から車で30分。宮城県の北東部、登米市に立地するスタンレー宮城製作所(以下スタンレー宮城)は、スタンレー電気100%出資の子会社として、1970年に設立した。主力製品の液晶用バックライトユニットは、現在、全製品の7割を占める。

厳しさを増す経済環境下、ますます激化する市場競争のなかで、同社が競合他社に優るキーとなるのが、高輝度を実現するバックライトユニットの技術。高い技術力を核に、今後は、LED照明モジュールも主力製品として育てていく方針だ。こうした高品質、高信頼性製品を輩出する生産力の基盤となるのが、スタンレーグループが推進するSNAP(生産革新)活動<sup>\*1</sup>である。スタンレー宮城では、97年からSNAP活動を導入、現場力に力点を置いて改善活動を進めている。その一環として、PEC作業改善研究、女子リーダー育成、トレーナー養成など、外部講座の受講を積極的に導入するとともに、社内改善実践会などの活動を展

開している。

なかでも、SNAP推進力となる現場力の底上げを図るために重視しているのが、「作業改善実践トレーナー養成講座」への参加による改善リーダーの育成だ。もともとは、スタンレー電気本体が経営革新活動に挑むなかで、活動の刷新を期してトレーナー養成講座に人を送り込んだのがスタートで、1997年、2004年、そして2009年と、これまで3度にわたって研修生を出している。

全6ステップ、6カ月間にわたる研修・訓練の基本は12年前も今も変わらず、第1ステップのモラル訓練、実行宣言、座学、トヨタ自動車工場見学に始まり、第2ステップ以降は多様な工場現場での実践を通して、トヨタ生産方式に基づいた改善活動やムダ取りを叩き込まれる。研修生はそれぞれ自社の改善活動で、どれだけムダ取りが出来てどれだけ活人、活スペースを達成したかを競い合い、最後に厳しい修了試験を通らなければ、合格点はもらえない。脱落者も出るほど徹底した

## 企業概要

会社名：(株)スタンレー宮城製作所  
所在地：〒987 0621  
宮城県登米市中田町宝江黒沼字十文字260  
設立：1970年  
資本金：4.9億円(スタンレー電気100%出資)  
従業員：232名(2009年4月現在)  
事業内容：液晶用面光源・ストロボ・ディスプレイ・LED照明の製造



代表取締役社長  
熊谷 重典氏